



被災地から運ばれてきた工業用モーター。津波で海水につかり、さびや泥が残る

＝札幌市西区の北都電機(国政崇撮影)

復旧担う静かな息吹

札幌の工場で
モーター修理

茶色にさび付き、泥だらけの大型モーター

が、ごろん、ごろんといくつも並び、修理を待っている。札幌市西区の電機設備会社「北都電機」では、東日本大震災で津波被害を受けた工場のモーターの再生に追われている。

同社は電機設備の補修・工事では全国有数の規模。震災後に東北からの依頼が急増し、3月下旬以降約30台を修

理した。13日には製紙工場などから120台が届いたが、被災地ではまだ多くのモーターが修理待ちという。

大きなものだと重さ約3ト。津波で海水と泥をかぶったモーターは、塩分を落とすため煮沸洗浄など特別な処理が必要で、1台の修理に10日から2週間かかる。「被災地分の修理が最優先」(川野辺弘文社長)と、同社初めて2交代24時間体制で作業に当たっている。

修理を終えたモーターは、シュルシュルと、かすかな回転音とともに息を吹き返す。その音は、復興への息遣いにも聞こえる。